

教科名	数学	科	科目名	数学 I ■必修 □選択	学年	1 年	単位数	3
使用教科書 副教材 等	最新 数学 I (数研出版) Study -Up ノート 数学 I (数研出版)				使用教室	HR 教室 選択教室		
学習の 目標	数と式, 図形と計量, 2次関数及びデータの分析について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。							
評価	評価法	興味関心、学習意欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 ■定期考査 □小テスト ■ノート ■振り返りシート □作品 ■パフォーマンス課題 (プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学習ノート) □その他 ()						
	評価 観点 の 趣旨	a	知識・技能	数と式, 図形と計量, 2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を理解できている。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に処理したりする技能を身に付けている。				
		b	思考・判断・表現	数や式を適切に変形したり, 図形について論理的に考察し表現したり, 事象を的確に表現してその特徴を表, 式, グラフを関連付けて考察したりできる。				
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度である。				
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価 (A、B、Cの3段階) および評点 (1~10の10段階) にまとめます。								
学期	月	学習項目・単元	学習内容・ねらい	評価方法				
				項目	a	b	c	
1	4	第1章 数と式	式を整理したり, 目的に応じて適切に変形したりする力を培う。中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめる。不等式の性質を理解し, 1次不等式を解く。	■定期考査	a	b		
	5	1. 数と式		□小テスト				
	6	2. 実数		■ノート	a	b	c	
7	3. 1次不等式		■振り返りシート	a	b	c		
				□作品				
				□パフォーマンス課題				
				□その他				
				()				
2	9	第4章 図形と計量	三角比の意味やその基本的な性質について理解できるようにする。また, 日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ, 三角比を活用して問題を解決する力を培う。 集合と命題に関する基本的な概念を理解する。	■定期考査	a	b		
	10	1. 三角比		□小テスト				
	11	第2章 集合と命題		■ノート	a	b	c	
12	第3章 2次関数		■振り返りシート	a	b	c		
				□作品				
				□パフォーマンス課題				
				□その他				
				()				
3	1	2. 2次方程式と2次不等式	2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し, 2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。 データの散らばり具合や傾向を数値化できるようにする。 1年間で学んだ内容に関する課題について, 主体的に学習し, 数学のよさを認識する。	■定期考査	a	b		
	2	第5章 データの分析		□小テスト				
	3	課題学習		■ノート	a	b	c	
				■振り返りシート	a	b	c	
				□作品				
				■パフォーマンス課題	a	b	c	
				□その他				
				()				
担当者からのメッセージ (学習方法など)								
習熟度別に1クラスを2グループに分けて授業を行う。								

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ ■必修 □選択	学年	2年	単位数	3
使用教科書 副教材等	最新 数学Ⅱ(数研出版)			使用教室	HR教室		
学習の 目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。						
評価	評価法	興味関心、学習意欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 ■定期考査 ■小テスト ■ノート ■振り返りシート □作品 □パフォーマンス課題（プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学習ノート） ■その他（問題集・演習プリント）					
	評価 観点の 趣旨	a	知識・技能	いろいろな式、図形と方程式、微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりできる技能を身に付ける。			
		b	思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察し、問題解決の過程や結果を振り返り、統一的・発展的に考察したりする力を身に付ける。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身に付ける。			
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。							
学期	月	学習項目・単元	学習内容・ねらい	評価方法			
				項目	a・b・c		
1	4	第1章式と計算	三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、式の展開や因数分解を行う。多項式の除法、分式式の四則計算の方法を理解し、計算を行う。数を複素数まで拡張し、複素数の四則計算を行う。二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解する。因数定理について理解し、高次方程式について因数定理などを用いてその解を求める。	■定期考査	a	b	c
	5	1. 式と計算		■小テスト	a		
	6	2. 等式・不等式の証明		■ノート	a	b	c
2	9	第2章複素数と方程式	座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表す。座標平面上の直線や円を方程式で表す。軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求める。不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりする。角を弧度法による表し方を理解し、三角関数の値の変化やグラフの特徴、相互関係を理解する。指数と対数を関連付けて考える。指数関数・対数関数の値の変化やグラフを理解	■定期考査	a	b	c
	10	1. 複素数と2次方程式の解		■小テスト	a		
	11	2. 高次方程式		■ノート	a	b	c
3	12	第3章図形と方程式	微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求める。導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく。不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求める。年間を通じて学んできた内容を相互に関連付け、生活と関連付けたり発展させた課題を見つけ、主体的に学	■振り返りシート	a		c
	1	第4章三角関数		□作品			
	2	第5章指数関数と対数関数		□パフォーマンス課題			
				■その他	a	b	c
				（問題集）			
担当者からのメッセージ（学習方法など）							
振り返りシートを用いて、学習の確認を行います。家庭学習も推進する。							

教科名	数 学 科	科目名	数学B □必修 ■選択	学年	2 年	単位数	2
-----	-------	-----	----------------	----	-----	-----	---

使用教科書 副教材 等	最新 数学B(数研出版)	使用教室	選択教室
----------------	--------------	------	------

学習の 目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを旨とする。
-----------	--

評価	評価法	興味関心、学習意欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 <input checked="" type="checkbox"/> 定期考査 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> ノート <input checked="" type="checkbox"/> 振り返りシート <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> パフォーマンス課題（プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学習ノート） <input checked="" type="checkbox"/> その他（問題集・演習プリント）	
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技能 数学的活動を重視し、既存の知識と関連付け、より深く体系的に理解できるようにする。「数学I」での学習を踏まえ、問題発見・解決の過程を一層自立的に遂行できるようにする。コンピューターなどの情報機器を用いてその変化の様子を調べたりする技能を身に付ける。
		b	思考・判断・表現 数列では、離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察できるようにする。統計的な推測では、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりできるようにする。
		c	主体的に学習に取り組む態度 粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。「学びに向かう力、人間性等」に関わる資質・能力において、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」と同様に全体を通しての質的な向上を目指す。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。			

学期	月	学習項目・単元	学習内容・ねらい	評価方法	
				項目	a・b・c
1	4	第1章数列 1. 数列とその和	等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求める。いろいろな数列の一般項や和を求める。事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察する。	<input checked="" type="checkbox"/> 定期考査	a b c
	5			<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト	a
	6			<input checked="" type="checkbox"/> ノート	a b c
7	<input checked="" type="checkbox"/> 振り返りシート	a c			
				<input type="checkbox"/> 作品	
				<input type="checkbox"/> パフォーマンス課題	
				<input checked="" type="checkbox"/> その他 (問題集)	a b c
2	9	2. 漸化式と 数学的帰納法 第2章統計的な推測 1. 確率分布	漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求める。数学的帰納法について理解する。事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用する。自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察する。標本調査の考え方、確率変数と確率分布、二項分布と正規分布の性質や特徴について理解する。確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察する。	<input checked="" type="checkbox"/> 定期考査	a b c
	10			<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト	a
	11			<input checked="" type="checkbox"/> ノート	a b c
	12			<input checked="" type="checkbox"/> 振り返りシート	a c
				<input type="checkbox"/> 作品	
				<input type="checkbox"/> パフォーマンス課題	
				<input checked="" type="checkbox"/> その他 (問題集)	a b c
3	1	2. 統計的な推測	正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解する。目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピューターなどの情報機器を用いて処理するなどし、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察する。	<input checked="" type="checkbox"/> 定期考査	a b c
	2			<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト	a
	3			<input checked="" type="checkbox"/> ノート	a b c
				<input checked="" type="checkbox"/> 振り返りシート	a c
				<input type="checkbox"/> 作品	
				<input type="checkbox"/> パフォーマンス課題	
				<input checked="" type="checkbox"/> その他 (問題集)	a b c

担当者からのメッセージ（学習方法など）
 振り返りシートを用いて、学習の確認を行います。家庭学習も推進する。

教科名	数 学 科	科目名	数学C □必修 ■選択	学年	2 年	単位数	2
使用教科書 副教材 等	最新 数学C(数研出版)			使用教室	選択教室		
学習の 目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを旨とする。						
評価	評価法	興味関心、学習意欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 ■定期考査 ■小テスト ■ノート ■振り返りシート □作品 □パフォーマンス課題（プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学習ノート） ■その他（問題集・演習プリント）					
	評価 観点の 趣旨	a	知識・技能	数学的活動を重視し、既習の知識と関連付け、より深く体系的に理解できるようになる。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりするための技能を身に付ける。			
		b	思考・判断・ 表現	「ベクトル」では、大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察できるようにする。「複素数平面」、「式と曲線」では、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察できるようにする。			
		c	主体的に学習 に取り組む 態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。							
学期	月	学習項目・単元	学習内容・ねらい	評価方法			
				項目	a	b	c
1	4	第1章ベクトル	平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解する。実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察する。ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解する。ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする。	■定期考査	a	b	c
	5	1. 平面上のベクトル		■小テスト	a		
	6	2. ベクトルと平面図形		■ノート	a	b	c
	7			■振り返りシート	a		c
				□作品			
				□パフォーマンス課題			
				■その他	a	b	c
				(問題集)			
2	9	3. 空間のベクトル	座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解する。ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする。数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用する。放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解し、相互に関連付けて捉え、考察する。曲線の媒介変数表示について理解する。	■定期考査	a	b	c
	10	第2章複素数平面		■小テスト	a		
	11	第3章式と曲線		■ノート	a	b	c
	12			■振り返りシート	a		c
				□作品			
				□パフォーマンス課題			
				■その他	a	b	c
				(問題集)			
3	1	2. 媒介変数表示と 極座標	極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることについて理解する。複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解する。ド・モアブルの定理について理解する。複素数平面における図形の移動などと関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察する。日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて曲線を表すなどして、媒介変数や極座標及び複素数平面の考えを問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。	■定期考査	a	b	c
	2			■小テスト	a		
	3			■ノート	a	b	c
				■振り返りシート	a		c
				□作品			
				□パフォーマンス課題			
				■その他	a	b	c
				(問題集)			
担当者からのメッセージ（学習方法など）							
振り返りシートを用いて、学習の確認を行います。家庭学習も推進する。							

教科名	数 学 科	科目名	数学Ⅲ ■必修 □選択	学年	3 年	単位数	4
使用教科書 副教材 等	最新 数学Ⅲ(数研出版)			使用教室	選択教室		
学習の 目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。						
評価	評価法	興味関心、学習意欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 ■定期考査 ■小テスト ■ノート ■振り返りシート □作品 □パフォーマンス課題（プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学習ノート） ■その他（問題集・演習プリント）					
	評価 観点の 趣旨	a	知識・技能	関数と極限、微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりできている。			
		b	思考・判断・表現	関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察し、問題解決の過程や結果を振り返り、統合的・発展的に考察する力を身に付けている。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し、数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。			
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。							
学期	月	学習項目・単元	学習内容・ねらい	評価方法			
				項目	a・b・c		
1	4	第1章：関数	いろいろな関数について、定義域や値域を確認しながら、グラフを書くことができる。逆関数や合成関数についての理解を深める。数列の極限について考え、正しい計算方法を身につけるとともに、収束や発散の様子をイメージしながら、数学的に考察する力を身につける。	■定期考査	a	b	c
	5	1. 分数関数		■小テスト	a		
		2. 無理関数		■ノート	a	b	c
		3. 逆関数と合成関数		■振り返りシート	a		c
2	6	第2章：極限	微分係数や導関数の意味について理解し、積及び商の導関数を求めることができる。合成関数や逆関数の微分法について学び、三角関数や指数、対数関数など様々な関数の導関数を正しく求める力をつける。関数の増減について調べ、極大値や極小値を求めたり、最大値ならびに最小値を求めることができるようにする。不定積分や定積分の基本的な性質について理解し、置換積分法や部分積分法を使いこなせるようにする。	□作品			
	7	1. 数列の極限		□パフォーマンス課題			
		2. 極限の計算		■その他	a	b	c
		3. 無限等比数列		(問題集)			
3	9	第3章：微分法とその応用	積分法を利用して、面積や体積を求められる。年間を通じて学んできた内容を相互に関連付け、生活と関連付けたり発展させた課題を見つけ、主体的に学習する。	■定期考査	a	b	c
	10	第1節 導関数		■小テスト	a		
		第2節 微分法の応用		■ノート	a	b	c
		11		第4章：積分法とその応用	■振り返りシート	a	
3	12	第1節 不定積分	積分法を利用して、面積や体積を求められる。年間を通じて学んできた内容を相互に関連付け、生活と関連付けたり発展させた課題を見つけ、主体的に学習する。	□作品			
	1	第2節 定積分		□パフォーマンス課題			
		課題学習		■その他	a	b	c
					(問題集)		

担当者からのメッセージ（学習方法など）

振り返りシートによる自己評価を行いながら、学習方法の見直しを行ってください。

教科名	数学	科目名	数学A ■必修 □選択	学年	3年	単位数	2
使用教科書 副教材等	最新 数学A(数研出版)			使用教室	HR教室		
学習の 目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。						
評価	評価法	興味関心、学習意欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 ■定期考査 ■小テスト ■ノート ■振り返りシート □作品 □パフォーマンス課題（プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学習ノート） ■その他（問題集・演習プリント）					
	評価 観点の 趣旨	a	知識・技能	場合の数と確率、図形の性質、約数と倍数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できている。			
		b	思考・判断・表現	場合の数と確率、図形の性質、約数と倍数についての基本的な理解をもとに、事象を数学的に考察し、問題解決の過程や結果を振り返り、数学的に表現・処理したりできる技能を身に付けている。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。			
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。							
学期	月	学習項目・単元	学習内容・ねらい	評価方法			
				項目	a	b	c
1	4	第1章：場合の数と確率	集合の要素の個数、順列や組合せについて学習し、各事象に合わせた場合の数を正しく求めることができる。 確率の考え方や基本性質について学び、和事象の確率及び余事象の確率や独立な試行の確率の求め方を理解する。	■定期考査	a	b	c
	5	第1節 場合の数		■小テスト	a		
	6 7	第2節 確率		■ノート	a	b	c
2	9	第2節 確率	反復試行の確率と条件付き確率について、様々な問題についての演習を繰り返しながら確実な習得を目指す。 三角形や円、空間図形に関する基本的な性質について理解し、図形の構成要素間の関係やすでに学習した図形の性質に着目し、新たな性質を見出すことができる。またその性質について論理的に考察したり説明したりできるようにする。	■定期考査	a	b	c
	10	第2章：図形の性質		■小テスト	a		
	11	第1節 三角形の性質		■ノート	a	b	c
	12	第2節 円の性質 第4節 空間図形		■振り返りシート	a		c
3	1	第3章：数学と人間の活動	約数と倍数について、これまでの学習を振り返りながら数学的に考察できる。最大公約数についての理解を深め、ユークリッドの互除法を活用して最大公約数を求められるようにする。 年間を通じて学んできた内容を相互に関連付け、生活と関連付けたり発展させた課題を見つけ、主体的に学習する。	□作品			
		1. 約数と倍数		□パフォーマンス課題			
		2. 1次不定方程式 課題学習		■その他	a	b	c
(問題集)							
担当者からのメッセージ（学習方法など）							
授業ノートや問題集の取り組み状況、振り返りシートを用いて、学習の確認を行います。							